

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	Protools2(Avid認定ProTools110)	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	4単位			授業形態	講義
教科書/教材	参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	吉田 光宏	実務経験の有無・職種	有・ミュージッククリエイター/AVID認定トレーナー		
学習目的					
<p>世界中の音楽スタジオや楽曲作成には欠かせない音楽ソフトウェアのProTools。このソフトウェアの基本的な操作と、概念をマスターし、音楽関連の現場でエンジニアとして働く者として常識となる技術を習得する。音楽録音は磁気テープ録音の始まりからマルチトラックレコーディングへと進化しライブでは実現不可能なサウンドも形成できるようになった。その流れを組むProToolsは磁気テープ録音の制約を超えた新しいサウンド作成としてもかかせない物であり、コンピュータを楽器として、レコーダーとして使用するため、アニメーションをはじめとする映像分野との連動も高くなっている。ProToolsを通じてレコーディングエンジニア、MAエンジニア、ラジオスタッフのあらゆる場面で活躍できることを目的とする。</p>					
到達目標					
<p>Avid ProTools110の取得を必修とする(このためには101を先に取得している必要がある)。この資格はPro Tools の設計・製造・販売元Avid社認定のワールドワイドな資格である。日本のみならず世界中のプロダクション等にPRできる強みがある。Pro Toolsの高い専門性を生かし、音楽、映像、放送など幅広い録音現場におけるエンジニアとして活躍できる機械を増やすためにも資格を取得する。資格試験の実施には日本国内では本校のような学校が環境、講師ともに最新の技術を導入している必要があり、毎年Avidに認定される必要がある。その貴重な機会を活かす。</p>					
教育方法等					
授業概要	Avid認定のProTools110テキストを使用する。こちらにはProTools全般の操作と様々な用語が解説されている。一見、難解な専門用語も多くあるため、経験ある講師によって具体的な操作を用いながら解説される。講義教室での解説にはProToolsの画面を表示しながら、実際に現場で使われた音素材を参考にどのように変化していくか、聞きながら学ぶ事になる。音で聞きながら目でも確認することを心がけて参加する。				
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対処する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	80%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画 (1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	MIDIについて	MIDIのレコーディングとオーディオのレコーディングを理解			
2回	バーチャル・インストゥルメント	バーチャル・インストゥルメントインスを使って音楽を作成できる			
3回	X-Pand2	X-Pand2を使用して音を作ることができる			
4回	MIDIのレコーディング	MIDIによる音符のステップ入力やリアルタイム入力、クオンタイズの適用ができる			
5回	リアルタイムプロパティ	MIDIリアルタイムプロパティの使用できる			
6回	クリップグループとクリップループ	MIDIクリップとオーディオクリップへのクリップループとクリップグループの適用できる			
7回	エラスティックオーディオ機能1	エラスティック機能を使用し、テンポやグループ感をそろえることができる			
8回	エラスティックオーディオ機能2	Beat Detectiveとエラスティックオーディオ機能を使用し、グループ感や調合を編集できる			
9回	エラスティックオーディオ機能3	エラスティックオーディオ機能とMIDIを同時に使用した場合のシグナルフローを理解する			
10回	フェードの適用	フェードイン、フェードアウト、クロスフェード、バッチフェードを使いこなす			
11回	オートメーション機能	オートメーションの書き込みと適用できる			
12回	エフェクターの処理	エフェクターによる色々な処理の方法がわかる			
13回	バスの使い方	バスを使った処理、ディスクにバウンス機能やトラックにバウンス等ができる			
14回	プロツールの様々な設定	I/O設定、プレイバックエンジン等、プロツールの様々な設定を理解する			
15回	ProTool s 110試験について	試験の概要、対策			